ぽけっとすとーりー　～小さな国の、小さな小さな物語～

　結局、神楽が何故忍者のような格好をしていたのか等、もろもろの謎は、次の日には解明されなかった。夜遅くまで起きていたので、雅也も神楽も眠くて仕方が無かったのだ。まぁ、小学一年生があんな時間に外でポケモンバトルをしていれば、この日の大半を寝て過ごしてしまっても、無理は無い。

　とは言え、担任の先生にこっぴどく叱られる羽目になってしまったのは、当然のことと言えよう。雅也達にとって予定外だったのは、学校で寝ていることを、家に連絡されてしまったことであろうか。神楽はどうだか知らないが、雅也は田島辰巳に正座で説教を受けた。

　そしてここからは、雅也がその次の日、神楽から聞いた話である。

　神楽は『出雲家』という、戦国時代の頃から続く忍者の一族の一員だそうだ。この事は、学校ではごく一部の人間しか知らない。現在の出雲家の頭領である出雲という方の、直属の血統では無いみたいだが、今後の能力次第では、神楽も頭領になる事は不可能では無いらしい。ゆくゆくは自分が出雲家を引っ張っていくべく、神楽も雅也達のように、日夜修行に励んでいる。

　そしてあの日、神楽が戦いを挑んできたのも、修行の一環だったそうだ。あの夜、田島辰巳と出雲陰久は、こっそりと二人の戦いを陰で見ていた。神楽が訪ねてくることは田島辰巳は知っており、どうやらいつの間にか、田島辰巳と出雲陰久との間で、そんな話し合いがされたとの事。

　ちなみに神楽は負けたので、週末は少しキツめの修行を行うらしい。もし雅也が負けていたら、勿論キツめの修行を行うのは雅也達だった……と言いたい所なのだが、実は勝とうが負けようが、その週末の修行はハードになることを、この時の彼は知らない。途中まで、雅也はずっと夢うつつな状態で戦っていたためである。寝込みを襲ってきたのが神楽ではなく他の悪意のある第三者だった場合、最悪、雅也は殺されていた可能性は充分にあった。これでは、バトルの結果などに意味は無い。

　週末のハードな修行に二人が悲鳴を上げること、そして、その時ルカリオが突然人の言葉を話せるようになって道場の全員が驚愕の声を上げて、この一件は幕を下した。

　余談だが、神楽が忍者であることは、太一や拓馬や良助、その他数名の生徒には、週明けから数日後に雅也がうっかり漏らしてしまい、あっさりバレてしまった。幸いにも彼等の神楽に対する態度が変わることは無かったが、プンスカ怒った神楽の機嫌を直すために、雅也の財布が大分軽くなってしまったのは、また別のお話である。